

◎多世代交流の仕組みづくり事業

10月4日（木）に、実谷区民館で三育学院大学の教員や学生による多世代交流拠点づくり事業が行われました。

この事業は、多世代が気軽に集い、地域で支えあう交流の場づくりに取り組むものです。

当日は、なつかしいオモチャやハーブを使った健康づくり教室が開催され、介護予防サポーターや地域の方たちなど、23名の参加をいただきました。



▲三育学院大学 保健師学生による吹き戻しによるトレーニング風景



▲ハーブ療法士 竹上先生によるハーブの効能の説明風景

今後も、三育学院大学をはじめ多様な方々と連携しながら、全ての世代が住み慣れた地域で、生きがいを持ち生活できるよう、気軽に集える交流拠点づくりに取り組んでまいります。

学生による健康教室では、若さ溢れる指導に笑顔がこぼれ、また竹上先生のハーブ教室では、庭先や畑の雑草が美味しい食材になることやハーブの効能を、分かりやすく教えていただきました。

そして、オリーブ茶やミント茶などの「利きハーブ茶」をしながら、楽しい時間を過ごしました。

こうした日頃からの交流の輪を広げていくことが、地域づくりや災害時の対応につながります。



▲竹上先生と談笑する参加者